

報告日 令和7年12月2日
報告回次 2回目

令和7年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	兵庫県教育委員会 淡路教育事務所			代表者名	葛西 富久美
担当者部署(属性)	その他	担当者部署名	教育振興課	連絡先電話番号	0799-26-3205
担当者役職	情報教育専門推進員	担当者氏名	武田 大和	連絡先E-mail	
住所	656-0021 兵庫県洲本市塩屋2丁目4番5号				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名	連絡先部署
担当者氏名	連絡先電話番号

1-3. 支援を求める内容

支援方法	職員向け啓発・研修（単独）	事業名	淡路地区情報教育研修会
概要	小中学校教員を対象に、ICTを効果的に活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実による主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくりについての助言をいただきたい。また、実践力と校内リーダーの育成を図るために、研修内で作成した指導案への講評をいただきたい。		
支援を求める分野	人材（DXに関する知識習得・研修・育成） 教育情報化／情報教育		

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	無				
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和7年11月27日	講演&フォローアップ(実地)	13時20分	16時30分	10
派遣場所	会場名	兵庫県立淡路文化会館		最寄駅	伊弉諾神宮前
	所在地	兵庫県淡路市多賀600		最寄駅からの交通手段	徒歩

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	藤村 裕一
評価	大変良い
上記評価の理由（どのようにところがよかったです等詳細に）	・教育の本質と情報活用能力の重要性を、理論と実践の両面から理解できた。 ・日本の教育の現状と課題を踏まえ、教育DXの必要性を再認識できた。 ・子ども主体の学びを支える「学び方」の具体的な方法を学べた。 ・学習のすべてを子どもに委ねるのではなく、教師の声かけや板書などの関わりの重要性を再確認できた。 ・生成AIのリスクを理解した上で、先生も子どもも安全に使えるようになる必要性を学んだ。
アドバイザーへの要望事項	理論に加え、演習や模擬授業等の実践形式の研修も実施していただきたい。

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】		合計人数	55人
	属性	自治体職員		
	人数	55		

4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点 (具体的にご記入下さい)	GIGAスクール構想により、一人一台端末や校内ネットワークなどのICT環境整備は整ってきてている。しかし、教員のICT活用能力には差があり、端末を効果的に活用した授業実践は十分とは言えない状況である。また、学校間や教員間でICT活用や教育観にばらつきがあり、先進的な実践を行なう学校と、そうでない学校との間で、児童生徒の学びに格差が生じていることも課題である。ICTを活用しながら、個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実による主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくりができる教員の育成が急務となっている。
支援により目指す成果 (具体的にご記入下さい)	本支援を通じて、教員がICTを効果的に活用しながら、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させる授業づくりを実現することを目指す。これにより、主体的・対話的で深い学びの推進が可能となり、児童生徒の学習意欲や理解の深化につながることが期待される。 アドバイザーからは、授業タイプごとの役割や具体的な実践例を交えた指導を受けることで、教員が自校の実情に応じた授業設計力を高める。また、ICTの活用法について実践的な視点から助言を得ることで、教員が自信をもってICTを取り入れた授業を展開できるようになる。

アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)	<ul style="list-style-type: none"> 教育の本質と情報活用能力の重要性に関する理論的・実践的な解説 授業改善に向けた具体的な手法の提示 先進校の事例紹介と教材提供 生成AIの活用とリスク理解に関する助言
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが主体的に学ぶための「問い合わせの立て方」「問題発見」「話し合い活動」など、学び方を鍛える重要性が理解が高まった。 目的に応じて授業タイプ（1型～4型）を組み合わせることや、構造的板書・掲示物など、授業改善の視点を学ぶことができた。
具体的な成果物	<p>最も当てはまるものをリストより選択下さい。 ⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない</p> <p>本研修内でフローチャート型指導案の枠と、他校の指導案事例を配布。今後は、今回学んだ理論や実践例を踏まえ、これらの枠組みを活用して子ども主体の授業をデザインする指導案の作成を進めていく。</p>
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	教育理念と教育哲学について詳しくご講義いただいたので、指導案作成のワークショップまでは研修が進まなかった。今回の内容をベースに、実践的な指導案作りの演習を取り入れた研修を行っていきたい。
アンケートの内容と分析結果	<p>講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。（EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。）</p> <p>アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加者の約40%が「子ども主体 × 教師の支援（掲示・板書・声かけ）」の両立について関心を持った。 教室での学び方の可視化や短時間討論などの実践事例が好評価。 生成AIは避ける対象ではなく、授業設計、教材研究、アイデア発想を支える実務ツールとして活用していく方向性が共有されつつある。
4-3. 今後の計画	<p>最も当てはまるものをリストより選択下さい ④予算以外で、今後取組む事項がある</p> <p>本研修で得た知見と配布資料（フローチャート型指導案枠・他校事例）を活用し、各校で子ども主体の授業デザインを進める。</p>
4-4. 事業の最終的な目指す姿	ICTを効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実による主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくりができる教員を、各学校に少なくとも1名配置する。さらにその教員が校内研修を通じてリーダーシップを発揮し、学校全体に主体的・対話的で深い学びを推進する環境づくりを図る。

5. 報告書についての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可 掲載可

https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good_practices/past_year_all_houkoku/

なお<その他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意下さい

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真（JPEG等）」を数枚程度貼り付けて下さい。

